

一筆啓上作左の会

平成29年6月10日（土）

平成29年度 「作左ゆかりの地視察旅行」 研修旅行

掛川城・おんな城主直虎大河ドラマ館・龍潭寺

- ローソン岡崎赤渋町店に集合。
- 8時出発予定でしたが、皆さん集まりが早く、最後にローソンでコーヒーを買っていたぶん遅くなったYさんが乗り込んで、全員集合。8時前のお出発となりました。
- 総勢44名。
旅行日和の好天気でした。

バスは「西三交通」

7:54



柵木顧問も挨拶

8:06

※行路変更

岡崎ICより東名高速に入るも、新城で事故があり、豊川～三ヶ日間が閉鎖。音羽蒲郡ICで降りて、新東名・岡崎東ICへ。後からわかりましたが、大変な事故でした（下の写真）。私たちのバスでなくて良かった。

新東名に入り、恒例の、横山先生（理事）による歴史講話。

8:46



浜松は、以前は引馬（曳馬）と言いましたが、家康が（1608年に）引馬城に攻め込んで攻略し、新たに城を築きました（増築）。築いたのは本多作左です。その時、引馬では（敗北に繋がり）縁起が悪いということで、この地にあった荘園・濱松荘の名をとって、濱松（浜松）と家康が命名（城名・地名）しました。作左にゆかり深い地です。

家康は（桶狭間の戦い後）18歳で岡崎（城）に帰りますが、その後、信長とは反対の東の方（浜松）へ領土拡大をしていきました。

掛川城は（木造の）天守閣が有名ですが、



9:17 浜松SA（NEOPASA浜松）でトイレ休憩。



9:56 新東名から「掛川城」が見えました。



10:06 駐車場から掛川城に向かう。



10:07 大手門。入城です。



天守閣

大手門は天守閣に続いて平成7年（1995年）に復元されたもの、大きさは間口7間（約12.7メートル）、奥行3間（約5.4メートル）の二階建。

掛川城の表玄関にふさわしい楼門造りの本格的な櫓門は、木造日本瓦葺き入母屋づくりになっている。白壁で板ひさしが配され、棟の上にはシャチ瓦が飾られた勇壮な構え。

実際は現在地より50メートルほど南にあった。

10:08 大手門の内側。

10:08 「掛川城天守閣」 平成6年、140年ぶりに木造で再建された。



10:09 「太鼓櫓」を臨みながら。



掛川城天守閣は、外観3層、内部4層から成る。6間×5間（約12m×10m）の天守閣本体は、決して大きいものではないが、東西に張り出し部を設けたり、入り口に付櫓（つけやぐら）を設けたりして外観を大きく、複雑に見せている。

1階、2階に比べ4階の望楼部が極端に小さいのは、殿舎の上に物見のための望楼を載せた出現期の天守閣のなごりといえる。白漆喰塗り籠めの真っ白な外容は、京都聚楽第の建物に、黒塗りの廻縁・高欄は大阪城天守閣にならったと考えられる。

太鼓櫓は、城下に時を知らせるための大太鼓を納めてあった建物。

10:12 トイレ休憩・一服休憩。



10:15 四足門（よつあしもん）。



調査では、門の跡は見つかっていないが、正保城絵図を元に復元された。門の内側には、入城者を調べる番所があった。本丸に通じる重要な門。

10:16



10:19 天守閣を背景に記念撮影。



10:21 天守閣への登り。

10:21



10:22

10:22 天守閣への入口。

10:21

10:23 ここから登り始める。



10:24 階段を上がると、山内一豊の像。

掛川城に天守を築いたのは、1590年（天正18年）に徳川家康が関東に移封したことに伴って入城した山内一豊である。一豊はこのときに3重4階の層塔型天守を築いたが、この天守は1604年（慶長9年）に起きた地震で大破した。天守が再建されたのは1621年（元和7年）、松平定綱が城主の時代。

1854年（嘉永7年）の安政の大地震（安政東海地震）で天守を含む大半の建物が倒壊。

1994年（平成6年）4月に日本初の木造復元天守として再建された。いろいろ展示物がある。





攻撃するために



更に上に登る。
階段は極めて急。45°らしい。 10:25

10:26 天守閣最上階。



10:27 天守閣最上階から「掛川古城」を眺める。

10:28



ボランティアガイド



最上階からは、かなり遠くまで見渡せる。

掛川古城は駿河守護・今川義忠が東遠江支配のために朝比奈泰熙に築かせた城。
朝比奈氏は泰熙・泰能・泰朝と3代つづき、朝比奈泰能の代に掛川城を築き移った。

「竹内喜則氏よりの寄稿文」

10:34 階段は下りの方が難しい。

10:35 △は鉄砲、□は弓。



10:35

10:37 武将隊と。



10:40

石垣は、所々組み直しているが基本は当時の石を利用している。側面は、残念ながらツタでおおわれているが、ここの石には、掛川城再建の時、新しく持ってきた石が使われているということです。そして、この石は、三河幡豆（現；西尾市）から持ってきたということです。江戸時代初期から、三河国幡豆は良質の石が採れることで有名だった。

10:41 「掛川城二の丸御殿」に向かう。



10:42



10:42 天守閣、ここから撮りました。

10:44 入ります。



10:44
忍者が！

10:45
中には、展示物もたくさんある。

御殿は、城主の公邸、藩の役所、公式式典の場などとして使用された。書院造と呼ばれる建築様式で、畳を敷きつめた多くの室が連なり、各室は襖によって仕切られている。
当初は、本丸にも御殿がつくられたが老朽化したり災害にあって、二の丸に移った。現存する御殿は、嘉永7年（1854年）大地震で倒壊したため、時の城主太田資功によって、安政2年（1855年）から文久元年（1861年）にかけて再建されたもの。安政2年から明治2年（1869年）までの14年間は掛川藩で使われたが、廃城と同時に勤番所と徳川家兵学校に転用され、廃藩置県とともに掛川宿に無償下附され聚学校として使われた。その後も女学校、掛川町役場、掛川市庁舎、農協、消防署などに転用され続けた。
その後、現存する城郭御殿としては、京都二条城など全国でも数カ所しかない、江戸時代の藩の政治や大名の生活が偲ばれる貴重な建築物として、国の重要文化財に指定されている。

10:45

10:47



10:46

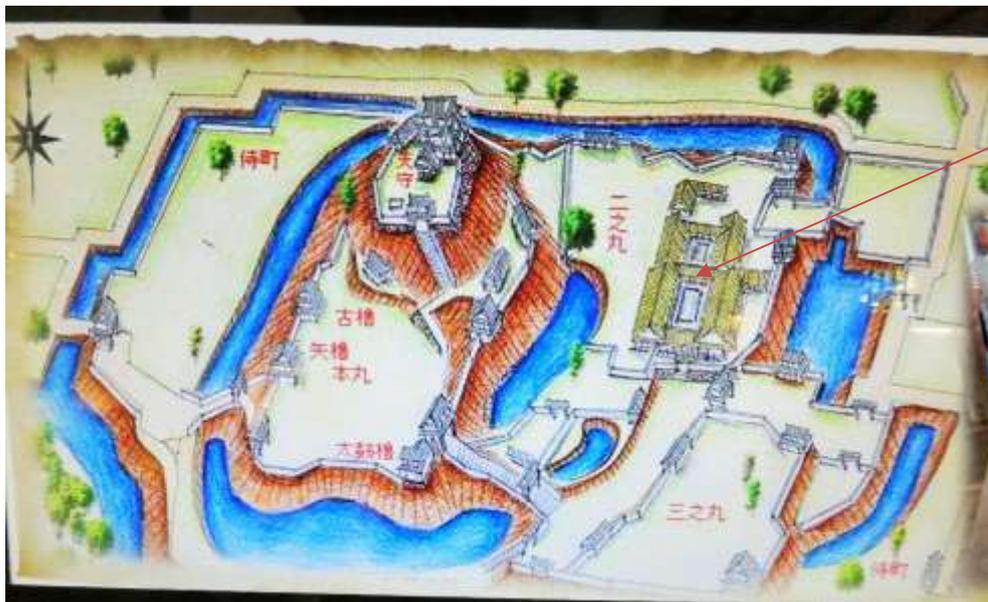


10:47 掛川城のジオラマ

10:48



10:50



御殿

10:49



10:50 御殿から天守閣を望む。

10:58



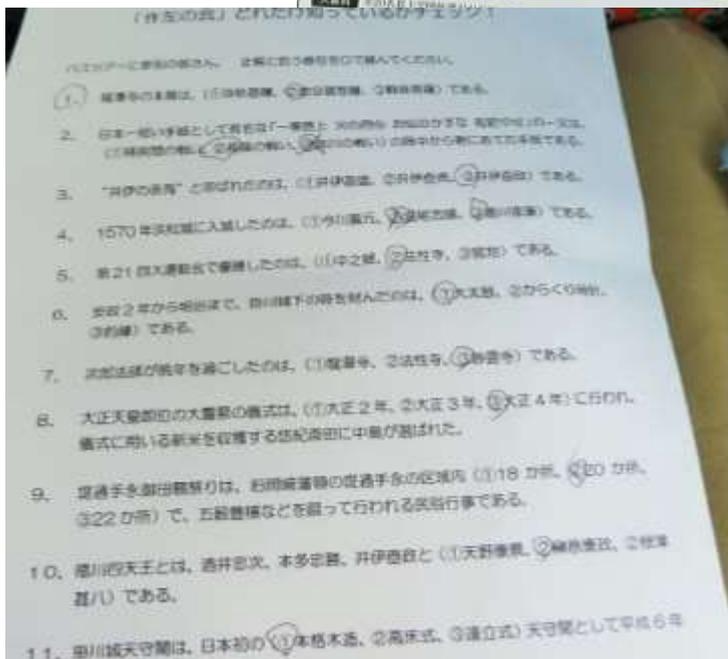
掛川城周辺は
見どころ沢山でした。

入館のご案内

掛川城(天守閣・御殿) 観覧料 午前9:00～午後5:00 (入館料 400円)	掛川二の丸茶室 観覧料 午前9:30～午後5:00 (入館料 400円)	掛川三の丸 観覧料 午前9:00～午後5:00 (入館料 400円)	掛川二の丸美術館 観覧料 午前9:00～午後5:00 (入館料 400円)	掛川市ステンドグラス美術館 観覧料 午前9:00～午後5:00 (入館料 400円)
--	--	--	---	--

掛川城(天守閣・御殿)
掛川二の丸茶室
掛川三の丸
掛川二の丸美術館
掛川市ステンドグラス美術館

100円	200円	500円
50円	100円	200円



バス移動の間に、恒例の豪華???賞品ありクイズで盛り上がる。設問者の思い以上に、皆には“難問”の声。しかし、連帯感の強い作左ファミリーは、それを乗り越え、高成績者続出!

帰路では、ビンゴゲームもありました。お楽しみタイムありがとう。

11:52

「竹内喜則氏よりの寄稿文」

12:04 昼食：奥浜名国民宿舎。兵藤会長あいさつ。



12:09

13:00 昼食終了。入口（出口？）で記念撮影。



13:21 一転、次の目的地の駐車場へ。



13:22 「気賀関所」



13:23



13:24

13:25



13:25



気賀関所

江戸時代 細江町を東から西に横切っていた街道を東海道本坂越えは本坂道根街道などと呼んでいました

根街道の要衝であった気賀の地は徳川家康は早くから関所を設けて入鉄砲と出女の監視を中心に通行人を荷物を取調べを行なった

その後箱根にも関所が設けられ気賀関所は箱根関所今切(新彦)関所とともに東海道三天関所といわれ明治二年まで続いた

平成元年 当時細江町ふるさと館理事長より現存資料を調査 寛政元年(二念)初めに元年後半末に気賀関所の冠木門 木番所 向倉所 遠見番所 刺札場 守備 三道具など天来をとり再現しき身大の入形を配置して当時を再現した

直虎「大河ドラマ館」

13:26



13:30



13:42 気賀関所資料館

13:33



13:43



「龍潭寺」到着… 本日のメイン。

14:30



14:34



兵藤会長の手配したボランティアガイドの説明で龍潭寺について学ぶことができました。

14:39 初代、井伊共保公“出生”の井戸の跡



14:41



龍潭寺の門前近くのこの地にあったといわれる八幡宮の井戸の脇に捨てられていた赤子を、宮の神官が拾い育てた。7歳のときに浜名湖畔の志津城の城主、藤原共資に養子に出された子は、後に共資の娘を娶って共保を名乗り、井伊谷に戻って井伊氏を称したといわれている。

14:41



14:43



14:48 再び龍潭寺に戻る。



山門



山門は、明暦2年（1656年）の建立と伝えられ、巴瓦（ともえがわら）に室町期のものといわれる古瓦を見ることができる。

14:52

浜松市制百周年記念事業
「湖北五山古木・御神木巡り」

龍潭寺「**榎の木**」
（りょうたんじ）

- 樹種 いぬまき科の常緑高木
- 樹齢 四百年（推定）
- 樹高 十九メートル
- 幹周 二・六七メートル（直径八五センチメートル）

井伊家二十四代井伊直政（幼名虎松）幼少の頃井伊家の安泰を急いで植えられた御神木です。

一五六〇年（永禄年間）当時の井伊家は、二十二代直盛の戦死、二十三代直親が誅殺され、家老小野野馬の謀反など受難の時期でした。

直政母子は龍潭寺松岳院に身を寄せ、お地蔵様を祀りその傍らに「なぎの木」を植えて我が子の安泰を日々念じたといわれます。

「なぎ」は風や波が穏やかになる例えて、昔から厄除け災難が収まるとも云われています。

平成二十三年五月 奥浜名湖観光連絡協議会



14:52
子育て地蔵



14:53
松岳院（直虎の母）
跡地（住んでいた）

子育て地蔵
「虎松の無事成長祈願仏」

戦国末期徳川軍の侵襲となり、慶長十八年石城主に出世した井伊直政公は、幼名を虎松といたしました。虎松は幼少の頃、井伊谷で実し苦難の道をたどりませ。

天保五年（一五六〇）虎松二歳の時、父直親は今川氏真の手により、掛川城下で殺されます。虎松も親す爺令が出来ますが、家老小野野馬の防衛隊で救われました。

この事件以後、井伊氏は存じの危機をむかえます。

天保六年二十代徳川公出陣の途中急死、翌年井伊城代に永禄十一年（一五六八）秋、虎松八歳の時、井伊領を家老小野野馬が横領します。

この時期虎松母子は、祖母・叔母に保護され龍潭寺内に入り、ひそかに境内に祀り、お地蔵さまを祀り、我が子の安泰を日々念じていました。

天保十一年十二月徳川家康が横攻、井伊領を占領します。急降を察知、南宮町向は虎松を龍潭寺に預けます。無事にたくましく成長した虎松は天保二十三年（一五七五）十五歳で家康に出仕、見事に井伊家を再興したのでした。



松岳院跡地

松岳院跡地とは、井伊家二十二代直盛公の御内室、松岳院様が住まわれた塔頭（寺内寺院）があった場所です。江戸時代中期に彦根の絵師が描いた龍潭寺境内図に、松岳院の建物が記されています。松岳院様は、おんな城主井伊直虎公の母君です。

永禄三年（一五六〇）五月十九日、桶狭間に出陣した直盛は織田信長の奇襲を受け、今川義元とともに討死しました。直虎の母は髪をおろし仏門に入り、松岳院という法号を頂き松岳院様とよばれ、龍潭寺境内のこの地に庵を建て、亡き直盛の追善供養を勤められました。

永禄十一年（一五六八）十一月、徳政令を受入れた直虎は井伊谷城を出て松岳院へ入りました。一ヶ月後の十二月、徳川家康は井伊領に侵攻して井伊谷城を接收し、引馬城へ入り遠州進出第一歩を印しました。

天正三年（一五七五）、井伊直政公は浜松城で家康に仕えました。天正六年（一五七八）一月十五日、直虎の母松岳院逝去。法名松岳院殿寿窓祐椿大姉と申し龍潭寺に葬られました。

天正十年（一五八二）六月、本能寺の変。家康主従決死の伊賀越え、直政は家康を守り無事岡崎に帰還しました。直政のこうした活躍を見届け、直虎は同年八月二十六日、大叔父である龍潭寺二世南溪和尚に見守られ逝去しました。

墓所へ向かいます。

14:54

14:57

14:57



15:00 井伊家の危機を支えた家臣の墓。



戦国期の井伊家を支えた武将の墓

戦国初期、二井伊領では、駿河の今川氏、甲斐の武田氏、三河の徳川氏が三つ巴で覇権（支配力）を争いました。遠江の代表的國人領主（在地領主）であった井伊氏にとって受難の時代でした。この井伊家を懸命に支えた武将たちがここに葬られています。

◆桶狭間合戦戦死の墓
永禄三年五月十九日、井伊二十二代直盛公に従って戦死した武将十六名を記ります。

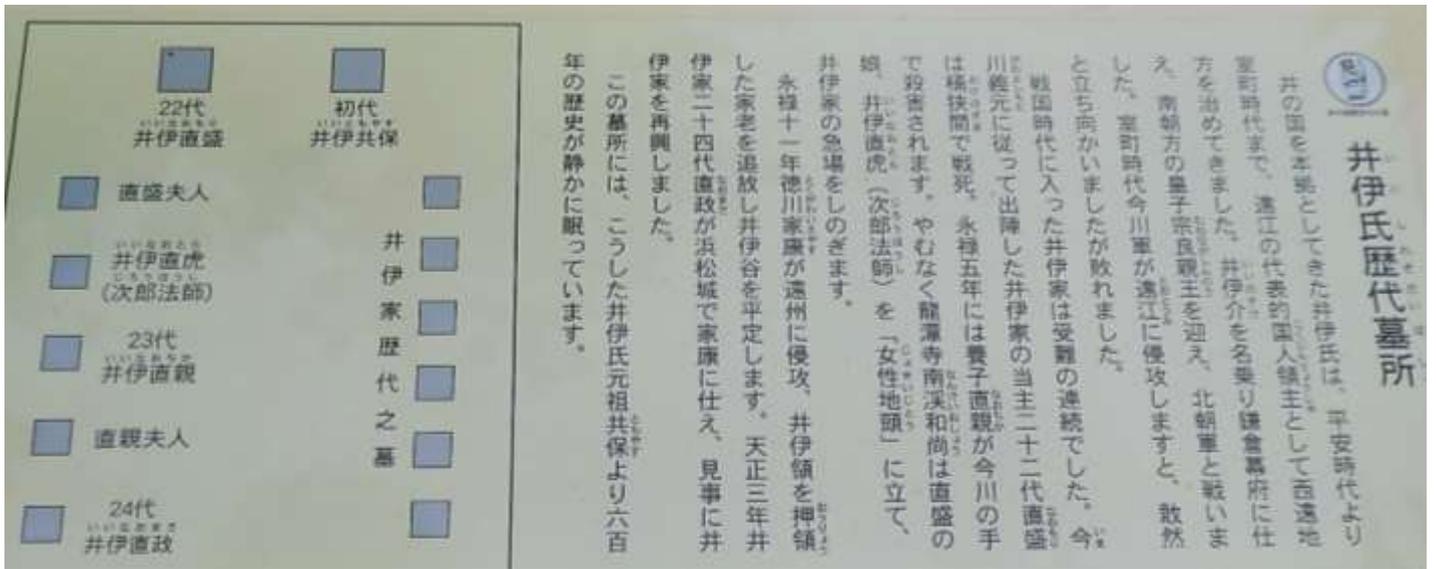
◆新野左馬助の墓
永禄五年井伊二十三代直親公が今川氏真の手で殺害され、その子直政も命をならわねます。時の家老新野左馬助が命にかえ、氏真に訴え直政の命を救いました。

◆中野氏の墓
井伊氏の一族中野氏の墓です。中野三代信濃守は幼い直政に代わり井伊谷城代を務め、永禄七年引馬城攻めで戦死しました。

◆鈴木重時の墓
直政の祖父、井伊谷三人衆の一人、三河山吉田城主です。永禄十二年堀江城攻めで戦死しました。



15:02



15:03 井伊家歴代墓所



15:05



15:05 本堂



15:06



15:06



延宝4年（1676）再建。大檀越 井伊直與公（27代）。七世 喝岩和本尚代。堂内の廊下は左甚五郎作、鶯張りの廊下として有名である。

15:08

この仏さまは遠州地方第一の大仏さま、丈六
 仏です。丈六とは一丈六尺（五米）の寸法を言
 います。お坐りですから三米ほどの高さです。
 享保十四年（一七二九）霊長作の寄木造り釈迦
 牟尼佛坐像です。

丈六の釈迦牟尼佛



龍潭寺
 萬松山 龍潭寺
 御本尊 虚空蔵大菩薩（秘仏）
 御創立 釈迦如来三尊佛
 由緒 井伊家・宗貞親王菩提寺
 井伊氏は平安時代より駿河時代まで六百
 年間、井伊谷を中心に遠州地方を治めてき
 た國人領主です。二十四代井伊直政公が彦
 根に移り、今日まで千年を数えます。龍潭
 寺は井伊家歴代の御堂をお祀りしてまいり
 ます。
 また当寺には南北朝時代
 軍と戦った徳川頼天皇子の
 文化財
 国指定名跡龍潭寺庭園（遠州地方）
 国指定龍潭寺伽藍六棟（本堂・講堂・
 山門・井伊家墓所・山門御堂）

15:09 外庭。



15:11



15:14 龍潭寺庭園



2017/06/10

「竹内喜則氏よりの寄稿文」

小堀遠州作・龍潭寺庭園は、江戸時代初期に本堂北庭として築かれた池泉鑑賞式庭園である。中央に守護石、左右に仁王石、正面に礼拝石（坐禅石）が配され、更に池の型が心字池となっていて寺院庭園として代表的な庭である。数多くの石組みと築山全体で鶴亀が表現されている。

岩は、地元で産するチャート（通称山石）を使い、明るくすんだ庭である。春のさつき、秋の満天星（どうだん）と四季折々の変化にも富み、昭和11年国指定名勝となるが、まさに東海一の名に恥じない名園である。



ゴ～ン。無事終了

その後帰路につき、帰りは高速道路の閉鎖にもあわず、17時前に戻ることができました。役員の皆様ありがとうございました。<(_*)>

写真； 倉地・竹内

編集； 竹内

2017.6.19